

4-9

利用者の QOL 向上に向けた取り組み

タクティールケアを通じた認知症周辺症状の緩和

タクティールケア

QOL 向上

特別養護老人ホーム 原町ホーム

発表者：介護職 渡部 江美子・眞弓 勉・野元 綱	共同研究者：介護職 高橋 健治（課長）
所在地：東京都新宿区原町 3-8	
TEL：03-3359-5651	E-mail：haramati-k@douen.jp
FAX：03-3359-5520	URL：http://www.doen.jp/index.html

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会が母体である 50 床の特別養護老人ホームです。施設のコンセプトは、“やさしさを起点としたパーソンセンタードケアによる安心と信頼のホーム”であり、一人ひとりの心に寄り添う介護を目指しています。
----------------------------	--

〈取り組んだ課題〉

パーソンセンタードケアの追求とそれに対する環境的な限界の中で、達成手段の一つとしてタクティールケアを導入した。タクティールケアの実施により、ご利用者の認知症周辺症状の緩和と QOL 向上に取り組んだ。

〈具体的な取り組み〉

- ・認知症周辺症状により、夜間不眠による昼夜逆転の見られるご利用者へのタクティールケアの実施。不眠時に集中的に行い、不眠の解消を目指す。
- ・右手に振戦強くみられるご利用者へのタクティールケア実施。また、その方は時折興奮状態になり、職員への暴言も聞かれている。ケアの実施により、食事摂取時の右手の機能向上と興奮状態解消を目指す。
- ・認知症周辺症状により帰宅願望頻繁に聞かれ、強い不穏状態見られるご利用者へのタクティールケア実施。食欲減退も目立っている。ケアにより、不穏状態の鎮静と食欲の増進を図る。

なお、倫理的配慮に関しては、調査の目的とプライバシーの遵守を依頼時に口頭で約束している。

〈活動の成果と評価〉

- ・夜間不眠のご利用者にも、タクティールケアにより数時間は睡眠時間を確保できた。
- ・ご利用者自ら「マッサージをして欲しい」との希望が聞かれることもあった。
- ・入所時に食事摂取が全介助であったご利用者が自力摂取となる過程で、タクティールケアが作用した。

〈今後の課題〉

- ・ご利用者の望む時間帯にいかにも実施していくか。
- ・ターミナルケアとしての積極的な実施。

〈参考資料など〉

- ・グスタフ・ストランデル『私たちの認知症—自分らしく生きるための「ケア・ツリー」とは？—』幻冬舎 MC、2009 年。
- ・タクティールケア普及を考える会『タクティールケア入門』日経 BP 企画、2008 年。

【メモ欄】